第 22 回　日本生殖心理学会学術集会
0-6
東京、2025.2.15-16

不妊治療後の出産・育児につなげる心理支援
～不妊治療後のカップルプログラム～

田中　久美子（タナカ　クミコ）、阪本　安侑美（サカモト　アユミ）、杉本　朱実（スギモト　アケミ）、森本　義晴（モリモト　ヨシハル）

所属：HORAC グランフロント大阪クリニック

【問題・目的】
不妊治療中に、心理的、経済的、身体的なストレスを感じる患者カップルは少なくはなく、長期化すると妊娠することが目標になってしまい出産・育児といったイメージを持てず苦悩を抱える患者がいる。ヨーロッパ生殖医学会（ESHRE）でも、不妊治療後妊娠した患者に対して 臨床的に重要な心理社会的問題を抱えている患者への専門的な心理社会的ケア（生殖心理カウンセリングや精神療法）の紹介、不妊治療により妊娠したことに関する不安について患者に話し合う機会を提供するなど、心理社会支援の提供を推奨しているが、具体的なエビデンスは示されていない。

本研究では、当院で提供しているカップルプログラムが不妊治療後のカップルにどのような影響を与えたのか考察することを目的とする。

【方法】不妊治療成功後の患者カップルに対してプログラムを実施。プログラムは基本 3 回 1 回 60 分、①不妊治療を振り返りこれまで表現することを避けてきた Negative な側面に焦点化しつつ箱庭制作、次いで男性にも箱庭制作に参加してもらったのちにカップル間で共有の機会を持つ②テキストをもとにカップルでおなかのあかちゃんとのおしゃべり③出産・育児に対してカップルでのイメージづくりの内容構成

【結果】箱庭制作のプロセスで、女性から「(夫が）わかってくれているんだな」「ありがとう」とコミュニケーションが生成することや、「ただ話して何になるん？」「カウンセリングはなんか抵抗がある」「来たくなかった」など最初は心理カウンセリングに抵抗感や男性たちが「やってみてよかった」「二人では当たりまえで話してなかったけど話すことで色々わかった」「必要性がわかった」「絆が深まった」と表出があった。

【考察】カップルプログラムを受けることにより、不妊治療の Negative な体験を安全な形で表現・共有でき、夫婦の関係の質の変化や、「妻とおなかの子を大事にしていきます」「父親としてできることをやってみます」などの発言に見られるように親イメージへの影響があったことから、不妊治療後のサポートに役立つことが示唆された。